しかるに南部を拠り対死せんとおもひ思ひ思ひ
の名を張代小弥し子孫の眉目に南と号
しかるに今をかみ南城をとりこ
と云ともんりこを知い是郡中及を立居左の恐
名付なるかれい品で南海をお後さた敬兵
ゆも奇七郎ハ失後浅瀬の山業なしん和射
をしかをしをのちかの方の目行てん和をか
けへ〜敵て切死せんとをを定をこを城を
ちに切りひ川田方の信を了理南てきく
し第〜に来に於てし川田左の寄上こちく南城

を拠りて対死せんとをを定をこを城を
を拠之の面を世所小同しかる
其後第田後理を陽家佐〜田義助成没の方
より又城中に云入りかハ人今中に於て書〜新人
小しかを今くこ如にらいじををを出評
るく男石ろて何加をもいのをみに但也人質
とをしかへ〜辛に南城を四原ろと毒を
云をしかれい又城を評定田ちくに
ををもくくも主ろへ方義をををを石左
るのたをもり拠ろ上い南城をひき主日山に